

エッセイ

やじ馬昆虫撮影記

(その4 模様を背負った甲虫たち)

千葉大学大学院 准教授

野村 昌史 (のむら まさし)

これまで、いろいろな昆虫に憧れて撮影してきた私であるが、写真を公開するとなると、どうしても「美しい色彩」とか、「きらきら輝く翅」という題材を紹介しがちである。でも歩いていて見つけた昆虫は、たとえどんな種でも撮影しようと心がけている。隠蔽擬態というすばらしい護身術を有している昆虫たちもいる。写真にしても目立たないものが多いが、その形や配色、そして見事な周辺環境への溶け込み等惚れ惚れするものも多い。ところがいざ紹介するとなると、周囲と区別がつきにくい昆虫はどこにいるのかわかりにくいことから、印象に残らない。特に白黒写真だとなおさらである。ということで、どうしても紹介する昆虫は派手な色彩や形態を持つ種類が多くなってしまふ…。

しかし色がきれいとか、光沢を持つ以外にもインパクトのある昆虫は多い。それは特徴的な模様を有する昆虫である。模様が目を引く昆虫というのはチョウやガ等が多いが、もちろん他のグループにもいる。そして以前から私が一度は見てみたいと思っていたのが、オオトラフコガネ(オオトラフハナムグリ)である。

この虫は子供のころ持っていたポケット図鑑にも載っていたが、その扱いが小さいこともあって、全く印象に残っていなかった。美しい生態写真を見て、これは見てみたいと思ったのは、比較的最近であるが、どこに行けばこの虫に会えるのか、さっぱりわからなかった。ところがある会合で、この虫に会いたいと希望を述べたところ、偶然にも観察したことのある人がいて場所を教えてください、出会いへの道が開けた。それ以来、見たい昆虫については、所構わずその希望を声に出すことにしている(笑)。

さて、今回教えていただいた場所は、高尾山に近い林道であったが、写真撮影しながらのんびり歩いてた

ところで、いきなり見つかった。その美しい姿にしばらく見とれていたところ、彼は身の危険を感じたのだろう、あたふたと動き出し飛び立ってしまった。これでは撮影にならないということで、また探し回ったところ、ようやく葉上で静かにしている個体を見つけ、撮影することができた(図-1)。やはり撮影前にしばし見とれてしまう昆虫だった。こうして感動する出会いをさせてもらったが、このときにはメスに会えなかったので、またいつか今度はメスも撮影したいものである。

オオトラフコガネのような幾何学模様も美しいが、単純なドット模様にも奥の深さを感じることもある。調査で訪れた北海道でのことであった。たくさん植えられていたハーブに青黒っぽい実のようなものが点々とついている。なんだろうと思って近づくと、それは甲虫だった。ヨモギハムシと似た外観だが、よく見ると光沢の中にドット模様があったのである(ハッカハムシというのがその名前であった)。テントウムシのような明確なドット模様も美しいものだが、翅の色と同系統の濃いドット模様は、この虫のセンスのよさを感じてしまった(図-2)。でも管理しているガーデナーの話では、たくさん発生するので害虫扱いとなっていた。初めて出会ったばかりの昆虫が、この場所では害虫化しているというのも驚きの話である。今後ハーブ類での発生がどうなっていくのか気になるところである。

さて「大型のハムシで翅に模様がある種」といえば、海外ではジャガイモの大害虫となっているコロラドハムシが挙げられる。幸い日本には入ってきていないものの、心のどこかであのド派手なストライプを撮影したいと思っている自分がある。その夢を叶えるべく?アメリカに旅立った私である。



図-1 オオトラフコガネ

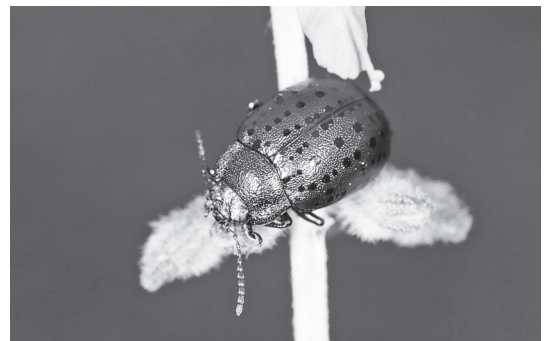


図-2 ハッカハムシ